



NPO PTPL “ともいき” 便り No.63

平成 26 年（2014 年）11 月 7 日発行

■立冬（りっとう） 11 月 7 日から 11 月 21 日までの節気

あたたかい鍋物が嬉しい季節になりました。「紅葉する木樹も多くなり、空気が乾いて空が青く澄む」（「ともいき暦」より）立冬の節気に入りました。気象庁のホームページ(<http://www.tenki.jp/>)の「紅葉情報」で東京をみると、奥多摩湖は「紅葉見頃」。井の頭公園は「色付き始め」、上野公園は「青葉」と記されています。北海道はほとんどが落葉。ただ「紅葉の状態は標高や樹木の種類などにより、同じ地点でも差が生じる場合があるので、お出かけ前に現地へ確認することをおすすめします。」とのこと。紅葉地図をみると、日本って南北に細長い国だなと改めて思います。ちなみに、本日は 11 月 8 日です。

11 月 10 日は「酉の市 一の酉」です。ともいき暦によると、「語呂あわせでトリコム、トリイレルという農事語と似ているところから農耕生活の中で縁起の良い日と考え、この日に大鳥神社で祭礼が行なわれました。その門前には農具や里芋などを売る市が立ち、これを酉の市と呼びました」とあります。この日、神社では「かつこめ」という稲穂がついた小さな熊手のお守りが渡され、縁起物の飾り熊手の露店が立ち並びます。お多福や鯛、打出の小槌、大判小判など様々な縁起物で飾られた飾り熊手はとてもきれい。いかにも、富や福をかき集めてくれそうです。今年の二の酉は 11 月 22 日です。

「熊手」という思い出のエピソードがあります。私がある幼稚園で「あそびクラス」をしていたとき、1 年間、「おかえりの会」で詩を読んであげたことがあります。「のはらうた」（工藤直子・作 童話屋）という詩集です。野原に住んでいる虫、動物、池や虹、雲……がそれぞれ創った詩がまとめられています。もちろん、実際に創っているのは工藤直子さんです。子どもたちが好きな詩は、リクエストに応じて何度も読んであげました。そして、晩秋のある日のこと。私たちは染物をするために、園庭にかまどを組み、どんぐりを煮込んで

いました。その間、子どもたちは自由に遊んでいました。園庭は大ケヤキが落とした大量の葉で覆われていました。その葉っぱを小さな熊手で集めながら、ブツブツつぶやいている女の子がいました。何を言ってるのかなと思い、そっと近くにいてみると、なんと、「のはらうた」の中の詩をつぶやいているではありませんか。その詩は「ありんこたくじ」の「おさんぽ」。わりと長い詩ですが、子どもたちの好きな詩の一つで何度も読んであげました。その詩を彼女はすっかり覚えていたのです。驚きました。

女の子、落ち葉、熊手……。その子はきっと、土のおいや葉っぱの感触を、熊手を通して感じながら、いい気持ちで詩をつぶやいていたのでしょう。まるで、鼻歌を歌うように。忘れられない晩秋の風景です。

今、私の町の花屋ではハロウィンが終わり、クリスマスリースを売り出しています。もう、12月?! なんだかせかされているようで、そわそわしてしまいますが、まずは木々の葉に映し出される季節の移ろいを詩集でも片手にゆっくり味わいたいと思います。

みなさんの町は、今、何色ですか。

すとうあさえ (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事)

■ ともいき・ともうみ・ともさち雑感彼是

○11月7日(金)は立冬。

旧暦でいうと、立冬(11月7日)から立春(2月4日)の前日(節分)までの3か月間を冬といい、現行カレンダーでは、気象的にほぼ1か月ずれて、12月、1月、2月の3か月間を冬とするのが普通です。

寒波襲来、冬一番も間近でしょう。

穏やかな小春日和とひんやりした時雨を繰り返しながら日毎に冷え込んでゆく、冬の序章です。

○11月9日は太陽暦施行の日です。

明治5年(1872年)11月9日のこの日、明治政府は太陰太陽暦を廃止して、太陽暦(現行カレンダー)を採用することを公布しました。(そして時刻法は1日24時間の定時制に切り替えられました。)

これによって、明治5年(1872年)の12月3日が太陽暦の明治6年(1873年)

の1月1日になったのです。

何故、このような短期間に慌てて、1300年も用いられつづけ、国民の生活に密着していた旧暦の改暦が断行されたのでしょうか。

8年前(2007年)、NPO PTPLは日本の風土に合った、日本人の生活に合った、これからの時代を指向するような暦がつかれないものかと考え始めました。そして、太陽暦(世界共通カレンダー)と太陰太陽暦を組み合わせ、旧暦の良さを捨てるのではなく、その良さを十分に生かし、人と人、人と自然の豊かなコミュニケーションを意識し、21世紀を生きる日本人の新しい価値観、生活観をも入れ込んだ新しい暦、「ともいき暦」をつくりあげ、2年後の2009年1月にWEB上で公開しました。(「ともいき暦」制作の発想は、共に生きる「ともいき」という価値観・生活観を基盤に、共に生み出す「ともうみ」という想像力・創造性です。)

明治の改暦から140年、これからも「ともいき暦」は1年ごとに磨き上げ、練り上げ、改良を重ね、日本人のための、日本人の生活の知恵としての暦にしたいものです。

季節の変化の兆しを感じ、味わいながら、回帰循環する自然のリズムの中で、生きているという実感が持てる暦にしたいものです。

一日一回、ともいき暦を。「ともいき暦」は21世紀を生きる日本人の生活の知恵です。

皆様からのご意見、ご要望をお待ちしております。



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■ 事務局だより

● 「No63 立冬号」のお届けが遅くなってしまいました。お詫びいたします。

● 立冬の節気を迎えました。ここ数日、朝夕はめっきり冷え込み晩秋から初冬へと季節の移り変わりを感じます。

立冬の節気には「一の酉」と「七五三」の年中行事が行われます。

東京浅草の鷲神社では、11月9日(日)の宵宮祭、11月10日(月)の当日祭が開催され、毎年歩くのも大変くらいの大盛況で、多くの人々が熊手を買って商売繁盛を願います。鷲神社は天日鷲命(あめのひわしのみこと)日本武尊(やまとたけるのみこと)をお祀りした神社です。二の酉は11月22日(土)に開催されます。

11月15日(土)は「七五三」。週末にあたらぬ年では、15日に参拝するのではなく、前の週末に済ませる家族も多いようですが、今年は土曜日にあたるので、多くの家族連れで賑わうことでしょう。

● Facebook「ともいきぐらし」(<https://www.facebook.com/tomoikigurashi>)

「おらが富士計画 ふるさと富士山探し」(<https://www.facebook.com/oragafuji>)

「ジャパネスク」のサイト(<http://japanesque.tokyo/>)をご覧ください。そしてご意見、ご感想をお寄せください。お待ちしております。

● 会員募集のご案内

NPO活動を推進していくためには、多くの皆さま方のご支援・ご協力が不可欠です。

NPO PTPLでは、常時、個人会員と法人会員を募集しています。この便りをお読みの方で、ご本人またはお知り合いの方々にご案内いただければ幸いです。

詳しくは下記まで、メールまたはお電話・FAXにてお尋ねください。

■ お問い合わせは

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-2-18 虎ノ門興業ビル7階

電話：03-6205-7503 FAX：03-6205-7504

Email：info@plantatree.gr.jp